

開発建設部

「第25回 開発建設部
業務研究発表会」
を開催

開発建設部においては、職員個々の技術力向上や業務処理能力の研鑽及び組織の活性化を図る目的で、昭和56年から年1回「業務研究発表会」を開催しております。今年は7月21日に那覇市内で開催され、開建部職員や管内地方自治体、公団等から約400名の聴講者が参加しました。

開会にあたり渡口次長から「変化する社会情勢を的確に捉え、説明性の高い情報提供と、優れた技術の積極的活用により、質の高い社会資本整備の推進が重要である。」と挨拶されました。

発表会では、一般技術部門13題、アカウントビリティ部門4題、新技術部門4題、一般共通事務部門5題、ポスターセッション部門1題の計27課題のエントリーがあり、その内、外部団体として沖縄県土木建築部、那覇市都市計画課、日本道路公団、(社)沖縄建設弘済会が参加し、大勢の聴講者を前にして発表を行いました。会場では、発表に対し審査員から様々な質問が出され、発表者は日頃の業務経験に基づき的確な回答を行い、辺りには緊張した空気が張り詰めていました。最後に、特別講演として、名城大学の小濱哲国際学部長より「地域づくりのキーワード～観光・環境・健康～」と題して貴重な講演を頂き、無事発表会を終えることができました。

なお、特に優秀な課題(以下5題)については、10月下旬に国土交通省で開催される「国土技術研究会」に推薦されます。●一般技術部門「漢那ダム下流河口閉塞が起因する河川生態系への影響と対策」/「限りある資源を大切に～省エネ法に対する取り組み」●アカウントビリティ部門「南部国道事務所における道路行政マネジメント」●新技術活用部門「新型(ペローズ)式選択取水設備の研究開発について」●ポスターセッション部門「コスト縮減とクリーンエネルギー活用を目指した技術開発への取り組み」

その他の賞については、開発建設部HPに掲載されています。

経済産業部

「2005年版通商白書
に関する説明会」
の開催

経済産業部では、「2005年版通商白書(経済産業省)」の発表を受け、同白書を広く理解してもらうため、財団法人経済産業調査会との共催により、去った7月19日(火)に『2005年版通商白書に関する説明会』を開催した。

説明会では、経済産業省通商政策局の野田美奈子氏から「我が国と東アジアの新次元の経済的繁栄に向けて」と題して、①世界経済の成長メカニズムと不均衡問題、②東アジアの継続的・自立的成長の胎動～東アジアのビジネスチャンスとリスク～、③我が国の少子高齢化・人口減少と東アジアの新たな経済的繁栄を目指した経済統合の三部構成で、それぞれに関係数値や図表を示しながら解説が行われた。

2005年版通商白書の中では、我が国は2006年以降の人口減少社会へと突入していくことを踏まえ、今後、経済的な豊かさを維持・向上させていくためには、日本自身が構造改革、知的資産の強化や人材の強化を進めて、その競争力を強化することの必要性と、我が国の蓄えた力を発揮するための大きな市場を形成するため、東アジアの経済統合を主導し規模の経済を実現できる地域市場や制度・基準を構築していくことが重要であることの提言がなされている。

説明会々場には、県内の金融機関をはじめ経済団体等から多くの関係者が出席し、説明の後出席者との意見交換も行われた。なお、同白書は、経済産業省のホームページに、その全文が掲載されておりますので、ご関心のある方は下記のアドレスをご利用ください。

<http://www.meti.go.jp/report/tsuhaku2005/index.html>

経済産業部

夏の省エネルギー
キャンペーンを開催

～標語: この夏、軽装で地球も
私たちも笑顔に～



経済産業部では、去る7月24日(日)、サンエー那覇メインプレイス屋外イベント広場で、夏の省エネルギーキャンペーンを開催した。

省エネルギーキャンペーンは、特に冷房用需要をはじめとしたエネルギー消費の増大する夏季にむけて県民の省エネルギーに対する理解と協力を求めるため、8月1日の「夏の省エネ総点検の日」を前に全国主要都市において行われる「省エネルギーサマーキャンペーン」の一環として、内閣府沖縄総合事務局、沖縄県、那覇市および財団法人省エネルギーセンターが連携し、毎年実施しているものである。

当日は、上原石油・エネルギー対策統括官の高らかな『省エネ宣言』を合図に、様々なイベントを催した。街頭イベントでは、B.B-Witchによるライブ演奏、省エネパネル展(ポスターコンクール優秀作品、省エネ情報パネル)、「爆竜戦隊アバレンジャー」のキャラクター(アバレッド)と一緒に考える「親子省エネお勉強クイズ大会」、琉球新報の4コマ漫画作家ももココロさんの「省エネまんがサイン会」、省エネグッズの配布を行った。また、メディアとのタイアップにより琉球放送のラジオ特別番組サンデーロコモーションで「いずみの省エネトライ」コーナーを設け、視聴者に省エネへの呼びかけや省エネ実践レポート等、省エネルギーに対する普及・啓発を行った。

農林水産部

「米の日8月8日に
ちなんだパネル展」
を開催

農林水産部食糧課では、去る8月8日(月)～12日(金)の間沖縄県庁1階の県民ホールをお借りして、当局主催、沖縄県農林水産部流通政策課、那覇市食生活改善推進協議会共催で「米の日(8月8日)にちなんだパネル展」を開催しました。

今回は、「食習慣を見直して生活習慣病の予防を!」をテーマに、ごはんのおいしい炊き方や「ごはん食でバランスのよい食生活を!」などのパネルや米の加工食品を展示するとともに、米の生産量、一人当たりの年間消費量の推移等を表示した手作りのうちわを配布し、米の消費拡大のPRを行いました。

また、1日の食事のフードモデルを展示し「那覇市食生活改善推進協議会」の専門家による体脂肪、内臓脂肪の測定及び一日の食事のカロリー計算を行い、食生活の面から「食塩や脂肪は控えめに」「運動は20分程度でよいので毎日するように心がけて」等のアドバイスも行いました。

さらに、昼食時には、17年産の県産の新米(ひとめぼれ)の試食も行い、夏休みということもあり親子連れ等訪れた方の年齢層も幅広く、米消費拡大、地産地消のPRができたのではないかと期待されます。(「ごはん大好き」食糧課消費拡大係 TEL 866-0155)



財務部

財政講演会を開催



去る8月9日、沖縄総合事務局財務部主催による財政講演会が那覇市のメルパルク沖縄において行われ、産業界、金融・保険業界、行政機関、婦人団体、教育機関など、約180名が出席しました。講師には財務省主計局主計企画官の井上誠一氏を迎え、「我が国財政の現状と課題」について講演を行いました。

井上氏は講演のなかで、公債残高が平成17年度末で538兆円と見込まれ、公債の累増に伴い政策的な経費である一般歳出の割合が大幅に低下し、財政の対応力が失われつつある我が国の厳しい財政の現状を説明しました。また、医療保険制度改革について、医療費の動向、国民医療費の見通し、一人当りの老人医療費の診療別内訳など、現在、医療保険制度の抱えている問題点や主要な論点等、資料を基に丁寧に説明しました。

聴講された方々からは、「2010年代初頭までに基礎的財政収支黒字化に向けて、政府は最大の努力をすべき」、「次世代に負担をかけないため、社会保障制度改革を強力に推進してほしい」、「一度は、思い切った歳出削減を実行したうえで、増税議論をはじめめる」など、厳しい意見もありました。



総務部

「今帰仁城跡周辺整備
施設」の落成式
を挙行

平成14年度から北部振興事業費によって、整備を進めていた「今帰仁城跡周辺整備施設」(グスク交流センター、駐車場等)が完成し、平成17年8月11日、現地において関係者を招き落成式並びに祝賀会が挙行されました。

本事業は、平成12年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つとして世界遺産登録された「今帰仁城跡」の周辺施設を整備することにより、北部地域の観光・経済及び文化振興の拠点として、地域振興及び来訪者との豊かな文化交流を促すことを目的としております。

今回、グスク交流センターを整備し、公衆トイレや休憩所、展示販売スペースを設置したほか、大型車・普通車等のアクセス道や大型バス駐車場(10台)、普通車駐車場(60台)の整備、城跡案内ガイド等の設置が行われました。さらに、歴史的風致を損なっている構造物の移転・撤去を行うことにより、歴史的・自然的環境の保全のための修景施設の整備が行われました。

今後、その有効な利活用により、地域の活性化に大きく寄与することが期待されております。

